

研 究 分 野	資源生態	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	東通原子力発電所温排水影響調査（海洋生物調査：イカナゴ）		
予 算 区 分	水産業企画調査費（交付金）		
試験研究実施年度・研究期間	H15～H27		
担 当	高橋 宏和		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域および周辺海域に与える影響を把握する。

〈試験研究方法〉

調査計画に基づき以下のとおり実施した。

- (1) 主要魚種（イカナゴ）漁獲動向：白糠、泊両漁協における漁獲量を調査した。
- (2) 標本船調査：平成 20 年 4 月～6 月に東通村左京沼から六ヶ所村棚沢川までのイカナゴ操業海域を南北方向に 10 区分し、白糠及び泊漁協の所属船延べ 6 隻のデータから漁場形成状況を調査した。
- (3) 仔魚分布調査：平成 20 年 2 月～4 月各月 1 回、東通村尻労から六ヶ所村棚沢川までの水深約 50 m～100m の 10 地点において、試験船開運丸でボンゴネット往復傾斜曳を行い、稚仔の分布密度を調査した。

〈結果の概要・要約〉

- (1) 漁獲動向調査：平成 20 年の両漁協の合計漁獲量は 43 トンで、昭和 56 年以降の平均（256 トン）の 16.6%であった（図 1）。
- (2) 標本船調査：標本船調査の結果を基に、発電所地先海域とイカナゴ操業海域における半旬別漁獲量を推定して示した（図 2）。平成 20 年には発電所地先海域に漁場は形成されなかった。
- (3) 仔魚分布調査：平成 20 年におけるボンゴネット往復傾斜曳によるイカナゴ仔魚分布密度は 3 月調査時には 25 個体/100 m³と平成 15 年調査開始以降、最高の値を示したが、平均では 12 個体/100 m³と平成 19 年の 11 個体/100 m³と同等の値であった（図 3）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

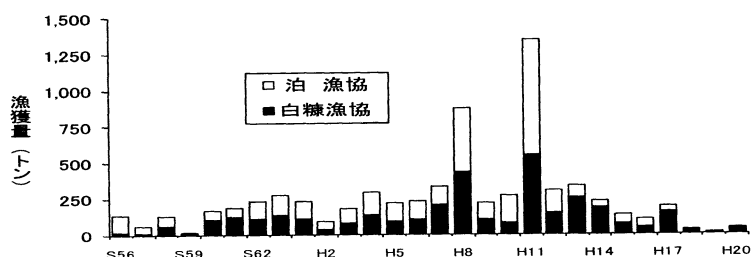


図 1 白糠及び泊漁協のイカナゴ漁獲量の推移

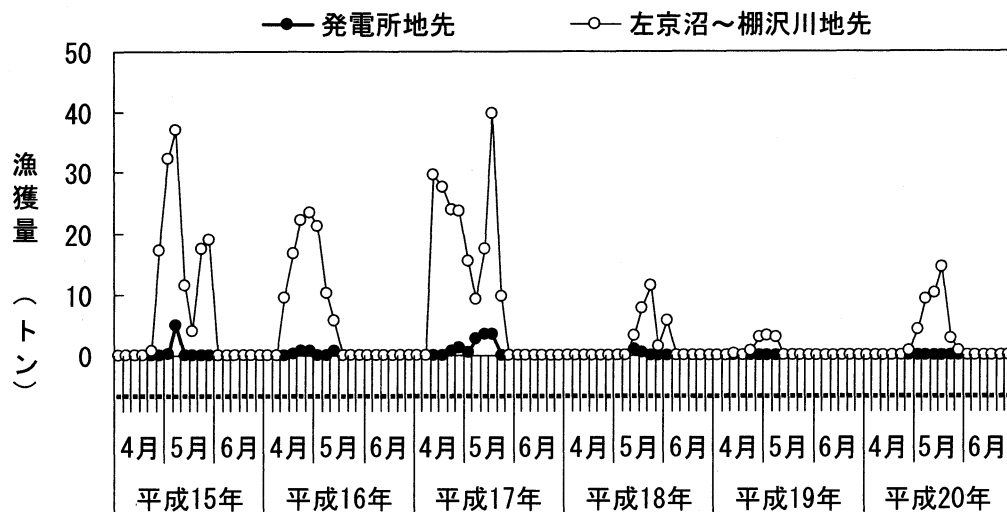


図2 発電所地先海域及びイカナゴ操業海域の半月別推定漁獲量

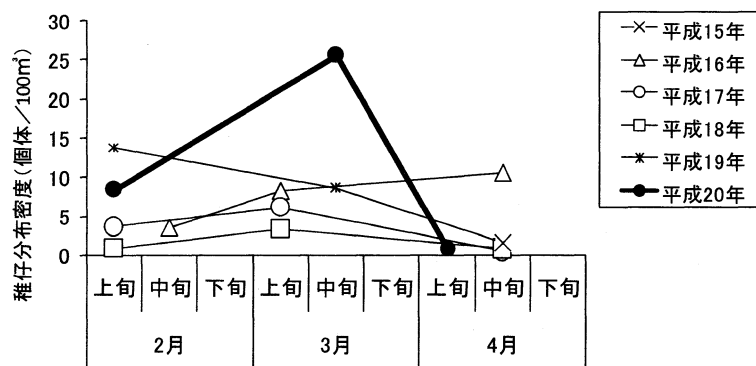


図3 稚仔魚分布密度

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成20年度第3回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会監視委員会で報告
- ・平成20年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告会（第1四半期）で報告
- ・平成20年度東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書